

---

# 腕

河衣小牧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

腕

### 【Nコード】

N3204F

### 【作者名】

河衣小牧

### 【あらすじ】

出逢った時から惹かれていた人。淡い羨望は、いつしか形を変えて。

ずるい。

狡い。

分かつてる癖に。

出逢ってしまった時、もう気付いていた。

あの日、淡く朧げ《おぼろげ》な花は、雨に濡れた道の上に散っていて。

その中、ただ前だけを見るあなたは綺麗で。  
綺麗で。

話し掛けることすら憚られた《はばかりた》。

いつしか、花の咲き誇っていた木から鮮やかな葉が散って。  
あなたとも、いくつもの言葉を交わした。

その度、にあなたのことを知って。  
少しずつ、紡がれる言葉に触れて。

あなたの日々に私の色が入る。  
私の日々にあなたの色が溶ける。

それだけで良かったのに。

誰かが、私じゃない誰かがあなたと。

言葉を交わす度、笑い合う度、

あなたに触れる度。

胸を穿つ《うがつ》感情。

これは嫉妬？

ねえ、  
これが  
恋というものかしら？

呟けば、

さあね、なんて笑うから。少し悔しくなるけれど。

ちゃんと知っている。

まだ、誰も知らない。

私の髪に触れた指先を

抱き寄せられた胸の温かさを

背中から抱きしめる

その腕の感覚を。

分かってはいるの。

その、不敵な微笑みも、

深い碧に染まる瞳も、

柔らかく薫る髪も、

耳元に響く声も。

全て、私のものにはならない。

独り占め出来ない。

だって。その唇も

その眼も

髪も

声も

あなたの所有物<sup>もの</sup>

だから、だからこそ、  
こんなにも愛おしい。

ただひとつ。

腕の中の温度は、私だけのもの。

腕の中で感じる。

皮膚の感触。  
甘い体温。  
肌の匂い。

あなたも知らない、  
この中の全ては、

私だけのもの。

(後書き)

小牧です。今回は、少し違うイメージで書いてみました。自信は皆無ですが、お気に召して戴けたら幸せです。お読み頂きありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3204f/>

---

腕

2011年1月30日15時13分発行